



EDO TRAVELER

旅江戸の
人戸重と

第5回企画展

広重と江戸の旅人

2014年 2月4日(火)～3月30日(日)

Part 1/2014年 2月4日(火)～3月2日(日)

Part 2/2014年 3月4日(火)～3月30日(日)



展覧会名: 広重と江戸の旅人

会 期: 2014年2月4日(火)～3月30日(日)

P a r t 1: 2014年2月4日(火)～3月2日(日)

P a r t 2: 2014年3月4日(火)～3月30日(日)

主 催: 静岡市東海道広重美術館(指定管理:NPO法人ヘキサプロジェクト)

協 力: 静岡市地域産業課、丁子屋、公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団

東海道は江戸幕府によって本格的に整備され、大名行列や寺社仏閣に参詣する旅人などが行き来して賑わいました。そんな中、歌川広重が描いた臨場感あふれる東海道風景の浮世絵版画は、旅に行きたくても行けない人たちの憧れを満たし、大衆の人気を博します。本展では歌川広重の『五十三次名所圖會』(通称豎絵東海道)、『東海道五十三次之内』(通称蔦屋版東海道)、『東海道五十三次細見圖會』をご紹介します。これらの作品には東海道の宿場とその周辺の風景、旅人が自身の足、あるいは駕籠や舟で旅をした時代の情景が描かれています。

併せて、江戸時代の旅人が携帯した旅道具の数々と共に、静岡市の伝統工芸品をご紹介します。静岡市の伝統工芸は、徳川家康公の駿府城築城や二代将軍秀忠公の久能山東照宮造営、更に三代将軍家光公の浅間神社造営に際し、全国各地から宮大工、塗師、指物師などの優れた職人が、東海道の宿場として栄えた「府中(現在の静岡市)」に集められたことが興隆を極める源になったといわれています。

浮世絵版画と旅にまつわる道具を通して追体験する東海道の旅を、是非お楽しみください。

出展作品 ※ 展示内容及び出展作品は都合により変更となる場合がございます。

■歌川広重

□Part 1

- 『五十三次名所圖會』(通称豎絵東海道) 55点
計55点

□Part 2

- 『東海道五十三次之内』(通称蔦屋版東海道) 48点
(浮世絵保存のため、今回展示出来ない作品が一部ございます。)
- 『東海道五十三次細見圖會』10点
計58点

■旅道具・静岡市の伝統工芸品

□Part 1, Part 2共通

- 当館所蔵の旅道具 (矢立、火打具、弁当箱、折りたたみ枕、裁縫道具など) 約17点
- 丁子屋所蔵の旅道具 (寛永通宝、天保通宝、きせる、小田原提灯) 計4点
- 静岡の伝統工芸品 (駿河漆器、駿河蒔絵、駿河竹千筋細工、井川メンパ、駿河指物) 計8点
計約 29点

 歌川広重 作品紹介

■Part 1

『五十三次名所圖會』（通称豎絵東海道）

歌川広重が天保四年（1833）37才の時に描いた『東海道五拾三次之内（保永堂版）』から22年後の安政二年（1855）、59才の最晩年に版元・蔦屋吉蔵から刊行されました。

東海道を含む名所絵は通常横向きで描かれることが多い中で、本揃物は豎向きに描かれることから通称「豎絵東海道」とよばれます。タイトルに「名所圖會」とあるように、旅のガイドブック「名所図会」の挿絵のような趣向となっており、縦の判型を活かし上空から斜めに見下ろすような俯瞰で描かれた作品が多いのが特徴です。このような俯瞰構図や、近景の事物を極端に拡大し、画面の奥行を表現する「近景拡大構図」は、翌年（安政三年）から刊行される広重の画業の集大成『名所江戸百景』にも通じます。



五十三次名所圖會 十七 由井 薩多嶺親しらす
 由比宿と興津宿の間にある薩埵峠は、東海道の難所であると共に富士の景勝地として有名でした。峠の道ができる前は、断崖下の波打ち際の危険な道を通るため「親不知子不知(おやしらずこしらず)」の名称で知られていました。



五十三次名所圖會 十九 江尻 田子の浦三保の松原
 右手から延びる松林は三保半島の上に茂った有名な三保の松原で、海上には清水湊に出入りする舟が描かれます。対岸には愛鷹連山と雄大な富士が望まれ、手前の浜に描かれた網干(あぼし)と、遠景の富士の三角形が相似形を成しています。

 歌川広重 作品紹介

■Part 2

『東海道五十三次之内』(通称葛屋版東海道)

本揃物は「葛屋版東海道」と呼ばれており、豎絵東海道と同じ版元・葛屋吉蔵から嘉永年間(1848～54)頃、広重50代前半のときに版行されました。大井川を渡る光景が描かれた「金谷」「島田」を一図に収め、全54図で構成されます。各宿の風景や構図は、広重の保永堂版をはじめ、他作品との類似も見られますが、人物が丁寧に描写され、当時の街道を行き交う人々の様子を今に伝えています。また画中には名所・名物の名が題箋(だいせん)に記されており、当時流行した旅のガイドブック『東海道名所図会』のような、名所案内図としての要素も強く、見る者は名所に思いを馳せたことでしょう。

『東海道五十三次細見圖會』

画中に「道中風俗」の名札があるように、東海道を歩き交う人々や風俗が滑稽に描かれています。背景には宿場とその周辺の風景が描かれ、題箋には各宿場の名所・名物の説明に加え、宿場間の距離も書かれており、旅の案内図と戯画を組み合わせたような作風が特徴です。



東海道 廿四 五十三次之内 嶋田 金谷

島田宿と金谷宿の間を流れる大井川は「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と俗謡に歌われた東海道の難所の一つで、旅人が渡るには、川越人足の肩や輦台(れんだい)などで運んでもらわなければなりませんでした。



東海道五十三次細見圖會 戸塚 藤沢へ二里

「旅籠屋の留女」では、旅人と留女(とめおんな)のやりとりがコミカルに描かれています。留女とは旅人を強引に旅籠屋に宿泊させる腕力のある女性で、旅籠屋の給仕や雑用に従事しながら遊女奉公も兼ねる者もいました。

旅道具とは

江戸時代後期になると、庶民もそれまでに比べれば、比較的容易に伊勢参宮などの信仰を対象とした社寺参詣や、近郊の物見遊山の旅に出掛けられるようになりました。当時の旅は主に徒歩、時には馬や舟、駕籠に乗って移動するにせよ、携帯する道具は軽量化・小型化され、持ち運びに便利のように工夫がされていました。旅出る者が増えた頃に多く刊行された「道中記」には、各地の名所や名物が挿絵と共に紹介され、必携の道具や薬が細かく書かれていました。旅人はまだ見ぬ土地の情報を「道中記」によって得ていました。旅の手引書（現在のマニュアル）も存在し、文化八年（1810）刊行の『旅行用心集』には、「旅に持参するものは、懐中物の他は出来るだけ少なくすること。持参物が多いと忘れ物が増える」との記述があり、旅人は必要最低限の道具を持って旅に出たようです。ただ、必携道具は旅を快適にするためのものではなく、自らの命を守るための危険を回避するためのものでした。身軽なことを促したのも、そのための注意なのです。

当館所蔵の旅道具



矢立(やたて)

携帯用の筆記用具で、墨壺と筆入れが一体となっており、筒の中に筆が入ります。材質は青銅や木材など様々で、腰に差して携帯しました。この矢立ての墨壺の蓋には、それぞれ蟹と亀の精緻な細工が施されています。



折りたたみ枕

携帯に便利のように折りたたみ式になっています。鬚(まげ)を崩さないように頭をつける位置が高くなっています。

静岡市の伝統工芸品

静岡市の伝統工芸は、徳川時代に行われた駿府城、久能山東照宮、浅間神社造営に際して全国各地から優れた職人が集められ、造営後も府中（現在の静岡市）に住み続けた職人たちの技術と伝統が、長い年月を経て受け継がれています。今日では静岡市の工芸品が国の伝統的工芸品、静岡県の郷土工芸品として指定されています。

静岡市地域産業 <http://www.city.shizuoka.jp/deps/tiikisangyo/index.html>

駿河竹千筋細工（経済産業大臣指定伝統工芸品）

静岡市周辺は気候が温暖のため、良質の竹が産出され古くから竹細工が作られており「駿河竹細工」と呼ばれていました。静岡市の特産品として生産されている「駿河竹千筋細工」は、三河の武士・菅沼一我（すがぬまいちが）が天保十一年（1840）に当地を訪れ、その技術・技法を伝えたのが始まりであるといわれています。竹ひごを使った花器、盆、虫籠などが生産され、街道を行き交う人々に売られました。「駿河竹千筋細工」は丸ひごを使った製品作りが特徴で、明治六年（1873）四月にウィーン国際大博覧会に日本の特産品として出品され、西欧諸国で好評を博し、多くの製品を輸出しました。現在も伝統の技術・技法によりランプシェード（電気のかさ）をはじめ花器・菓子器など多くの竹細工製品が作られ全国で愛用されています。昭和五十一年（1976）、静岡県で初めて伝統工芸品として通産大臣（現・経済産業大臣）の指定を受けています。（静岡市地域産業課 『静岡市の地場産業』より）



井川メンパ（弁当箱）



駿河蒔絵 胴張硯箱水芭蕉文



駿河指物 角形手提飾箱



駿河竹千筋細工 花器



駿河漆器 手箱忍文仕立箱

丁子屋プロフィール

丁子屋は慶長元年(1596)、東海道五十三次の二十番目の宿場「丸子宿」にて創業。守り続ける伝統と変わらぬ素朴な味のとろろ汁は、四〇〇年の時を経て、今に受け継がれています。

<http://www.chojiya.info/>



丁子屋所蔵の旅道具 きせる

関連企画-1

(公財)アダチ伝統木版画技術保存財団

浮世絵版画の実演と体験ワークショップ

日時: 2014年2月8日(土) (1日2回 / 午前の部11:00-12:30 午後の部14:00-15:30)

講師: 公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団

参加費: 無料※入館料別途

参加人数: 15名

申し込み: WEBサイト・電話にて申し込み(先着順 ※定員になり次第受付を終了します。)



実演・体験作品

歌川広重 『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』



実演・体験の様子(2013年/由比桜えびまつり)



■関連企画-2

当館学芸員によるギャラリートーク

『東海道の旅』

□日時: 2014年 2月15日(土) 13:00~13:30

□参加費: 無料 ※入館料別途 当日当館エントランスホールにお集まりください。(申込み不要・定員制限無)

開館時間：午前9時—午後5時(入館は閉館の30分前まで)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)

入館料：一般500円(400円)／大学生・高校生300円(240円)

※中学生以下及び静岡市在住の70才以上の方は無料 ※()は20名以上の団体料金 ※身体障害手帳等をご持参の方及び介助者は無料

主催：静岡市東海道広重美術館 (指定管理者:NPO法人 ヘキサプロジェクト)

協力：静岡市地域産業課・丁子屋・公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団



〒421-3103 静岡県静岡市清水区由比297-1

Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321

[URL] www.tokaido-hiroshige.jp

[facebook] www.facebook.com/tokaido.hiroshige

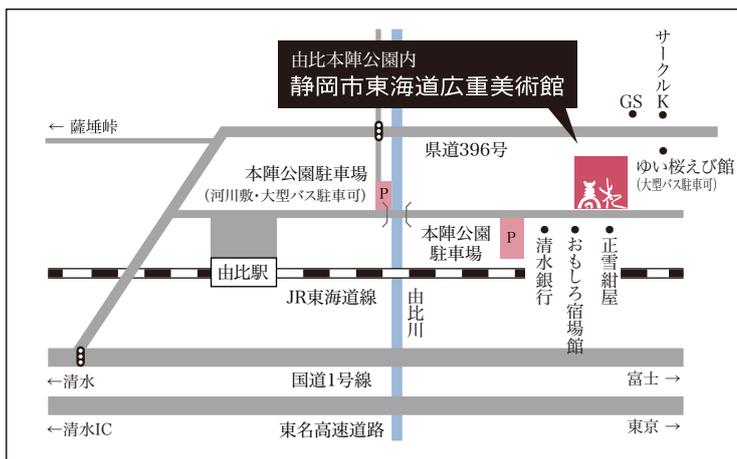
〈電車をご利用の場合〉

JR東海道本線「由比」駅下車後 徒歩25分、タクシー5分

〈お車をご利用の場合〉

美術館駐車場 21台(由比本陣公園駐車場)

東名高速清水ICから国道1号経由約20分



本展覧会及びプレスリリースに関するお問い合わせ

静岡市東海道広重美術館 Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321 pr@tokaido-hiroshige.jp

■ 広報用画像提供のご案内

展覧会広報用として下記5点のデジタルデータをご用意しております。ご希望の場合はメールまたはファックスにてお申し込みください。



1



2



3



4



5

■ 作品名およびクレジット

1. 展覧会ポスターイメージ
2. 歌川広重 『五十三次名所圖會 十七 由井 薩多嶺親しらす』静岡市東海道広重美術館 蔵
3. 歌川広重 『五十三次名所圖會 十九 江尻 田子の浦三保の松原』静岡市東海道広重美術館 蔵
4. 歌川広重 『東海道 廿四 五十三次之内 嶋田 金谷』静岡市東海道広重美術館 蔵
5. 歌川広重 『東海道五十三次細見圖會 戸塚 藤沢へ二里』静岡市東海道広重美術館 蔵

<使用条件>

※作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

※ご使用の際には、画像のトリミングや、別の画像との合成、文字乗せ等はお遠慮ください。

※各画像のキャプション及びクレジットを明記の上、ご使用ください。

※ご使用の際には、お手数ですが校正紙をEメール添付にて担当までお送り下さい。

※弊館での広報実績資料とさせていただきますため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどお送りいただければ幸いです。



第5回企画展 **広重と江戸の旅人**

広報用画像データ申込書

静岡市東海道広重美術館 行

Fax. 054-375-5321 E-mail. pr@tokaido-hiroshige.jp

■ご希望の作品番号にチェックをつけてください

- 1. 展覧会ポスターイメージ
- 2. 歌川広重 『五十三次名所圖會 十七 由井 薩多嶺親しらす』静岡市東海道広重美術館 蔵
- 3. 歌川広重 『五十三次名所圖會 十九 江尻 田子の浦三保の松原』静岡市東海道広重美術館 蔵
- 4. 歌川広重 『東海道 廿四 五十三次之内 嶋田 金谷』静岡市東海道広重美術館 蔵
- 5. 歌川広重 『東海道五十三次細見圖會 戸塚 藤沢へ二里』静岡市東海道広重美術館 蔵

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

TEL :

FAX :

E-mail :

画像到着希望日 :

月

日

時頃

※ 指定可能時間 10:00~16:00

掲載予定日(コーナー名) :

月

日

本プログラムをご紹介いただく際は、ご連絡をお願いいたします。

Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321 pr@tokaido-hiroshige.jp